

H28 年度医療技術等国際展開推進事業専門家派遣報告書

心臓血管外科 講師 徳永 千穂

派遣期間： 平成 28 年 10 月 23 日 ～ 平成 28 年 10 月 28 日

2016 年 10 月 23 日から 29 日までベトナム、ホーチミン市にあるチョーライ病院心臓血管外科を訪問しました。筑波大学心臓血管外科はチョーライ病院心臓血管外科開設時より継続した協力関係を築いています。私は本年 5 月に 1 ヶ月ほど、チョーライ病院心臓血管外科に滞在して研修を行っていたので、特に今回のチョーライ病院訪問では、友人のベトナム医師たちとの再会も大変楽しみにしていました。

チョーライ病院心臓血管外科では年間 1000 例以上の心臓手術を行っており、外科医のスキルはかなり高いレベルであり、日本と比較して年齢の若い外科医でも十分な技術をもって手術を行っていると感じています。今回は、僧帽弁位機械弁の血栓弁による再手術や巨大左房粘液腫など、日本ではすでに見る機会の少ない珍しい症例を経験することができました。

また、今回の滞在中に小児 ECMO（体外式膜型人工肺）装着患者がいたため、心臓血管外科医・循環器内科医とともに、ベットサイドで実際の患者の術後管理の指導を行うことができました。術後管理は、心臓血管外科のデパートメントに所属している循環器内科医師が成人・小児ともに行っていますが、彼らの多くはもともと成人循環器内科出身であり、小児管理の経験がまだ多くないのが実情のようです。チョーライ病院での複雑心疾患の症例数が増加しているなか、重症先天性心疾患、単心室患者などの小児特有の管理が必要な症例について、循環作動薬、特に血管拡張薬の使用法や体温管理などを中心に、重症先天性心疾患の術後管理をベットサイドでもに行いました。最終的に 1 週間の滞在中に ECMO 離脱まで到達することができましたが、これは大変大きな収穫であったと考えています。

さらに、前回訪問時から、日本と比較すると術前検討や検査が不十分である場合も多いと感じていました。日本とは保健医療システムが異なり、医療費の問題もあるため日本と同様の検査が全て行えるわけではないのですが、疾患ごとのポイントとなる術前評価についてと、一つ一つの症例に対するハートチームとしての情報の共有の重要性を、“**Basic and advanced assessment for patients on cardiac surgery**”というテーマで、チョーライ病院筑波大学循環器セミナーで発表させていただきました。沢山の若いドクターや看護師が参加して下さり、こういった新しい知識を学びたいというベトナム人医師の熱意を感じることができました。

今回は、私にとって 4 度目のチョーライ病院訪問となりましたが、訪れるたびに心臓外科として着実に成長していることを実感します。彼らから学ぶことも非常に多く、今回の訪問でも沢山の新しい知見を得ることができました。こういった交流を繰り返しながら、双方がより成長していけるよう、今後ともチョーライ病院と筑波大学の発展に少しでも貢献できれば、これ以上の喜びはないと考えております。



ECMO 装着患者ベットサイドで



左房粘液腫切除術